再評価結果（平成１９年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局　国道・防災課
担当課長名：木村昌司

事業名	一般国道２１７号　佐伯弥生（さいきやよい）バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	大分県
起終点	自　：　大分県佐伯市駅前（おおいた さいき えきまえ） 至　：　大分県佐伯市弥生大字小田（おおおた さいき やよい こだ）			延長	６．４km

事業概要　一般国道２１７号は、大分県大分市を起点とし、大分県佐伯市弥生に至る延長約６８ｋｍの幹線道路である。佐伯弥生バイパスは、東九州自動車道佐伯ＩＣアクセス向上とともに佐伯市内の交通混雑解消を目的とした大分県佐伯市駅前から同県佐伯市弥生に至る延長６．４ｋｍの４車線（暫定２車線）道路である。

Ｈ９年度事業化	Ｈ８年度都市計画決定	Ｈ１２年度用地着手	Ｈ１４年度工事着手

全体事業費	２００億円	事業進捗率	６８．７％	供用済延長	０．０km
計画交通量	７，２００台／日～１８，２００台／日				

費用対効果分析結果	B／C	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 1.6 (残事業) 3.2	87 / 174 億円 事業費：83/ 170億円 維持管理費：3.9/3.9億円	276 / 276 億円 走行時間短縮便益：249/ 249億円 走行費用減少便益： 16/ 16億円 交通事故減少便益： 12/ 12億円	平成１８年

感度分析の結果

交通量変動	B/C＝3.49（交通量+10%）	B/C＝2.86（交通量-10%）
事業費変動	B/C＝2.88（事業費+10%）	B/C＝3.58（事業費-10%）
事業期間	B/C＝3.06（事業期間+20%）	B/C＝3.46（事業期間-20%）

事業の効果等
・主要渋滞ポイントである上岡変電所前交差点の渋滞解消が見込まれる。
・東九州自動車道佐伯ＩＣと佐伯市内を連絡し、利便性の向上が見込まれる。　他13項目に該当

関係する地方公共団体等の意見
佐伯市内の交通渋滞の解消や合併に伴う地域間交流の促進のため、国道２１７号等整備促進期成会（平成１８年１月３０日）から整備促進の要望を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
・平成１８年２月７日、国土開発幹線自動車道建設会議（国幹会議）が開催され東九州自動車道佐伯～蒲江間の整備方針の決定された。
・市町村合併に伴い合併支援を行う必要がある。

事業の進捗状況、残事業の内容等
平成18年度末の用地取得率は71.7%であり、改良工事においても、鶴岡トンネルL=７９７ｍ・鶴望トンネルL=７６９ｍを工事中である。平成２０年度の第１期工区供用を目標として事業を進める。

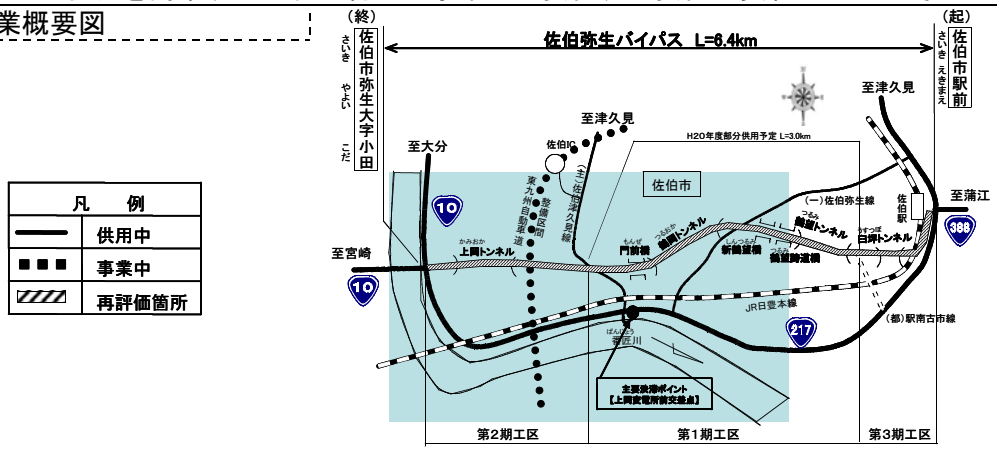
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
平成２０年度に第１期工区の部分供用に向けて、鋭意用地交渉を行い事業進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等
・環境保全のため、山地部は大規模な切土をさけ、トンネルで対応している。
・間伐材のチップによる盛土法面の緑化など、バイパス周辺の景観と環境の保全に取り組んでいる。
・ルートの選定においても市街部を迂回するバイパス案を採用した。

対応方針　事業継続

対応方針決定の理由
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。